

令和5年度

事業計画書

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

令和5年度事業計画について

当財団は京都コンサートホール、京都市文化会館（5館）、ロームシアター京都の指定管理者として施設の運営に当たるとともに、京都市交響楽団の運営も行っております。

令和5年度は、京都コンサートホール、京都市文化会館（5館）については、指定管理者として5期目の初年度を迎え、ロームシアター京都については、3期目（8年間）の指定管理者として後期期間のスタートの年度となります。

また、文化庁の京都移転、京都市立芸術大学の京都駅東部への全面移転など、京都にとって大きな節目の1年を迎えます。

そのような中、各施設共に、「中期経営計画2025」に基づき策定した、指定管理者指定申請書において提案した取組を着実に推進することにより、一層、京都の文化芸術の魅力を国内外に発信し、京都の心豊かな暮らしを深く実感できる文化芸術をあらゆる人に提供してまいります。

京都市交響楽団においては、京都市交響楽団ビジョンの戦略に基づき、第14代常任指揮者に就任した沖澤のどかと共に、新たなステージへ向けて、名実ともに文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図ってまいります。

『公益目的事業』

■ 京都コンサートホール

I 主催・共催事業〔44事業51公演7講座〕

京都コンサートホールでは、当ホールを活動拠点とする京都市交響楽団を起用した公演のほか、海外オーケストラによる公演や世界的アーティストによる公演をはじめ、京都でしか聴くことのできない独自の企画立案にこだわり、「クラシック音楽の殿堂」として多彩な事業を計画しました。今年で27回を迎えるホール基幹事業「京都の秋 音楽祭」においては、京都市交響楽団の演奏による『開会記念コンサート』を皮切りに、およそ2か月にわたり22公演を実施いたします。

育成事業及び普及事業では、廉価な価格設定および多種多様な事業を展開することにより、幅広い聴衆層の獲得を目指し、地域の文化振興・発展に貢献します。また、活動2年目となる第2期登録アーティストと共にホール独自のアウトリーチ事業を実施し、小学校や福祉施設など様々な現場に生演奏を届けることにより地域住民との音楽的交流を図ります。

さらに、間近に控えている文化庁京都移転や京都市立芸術大学新キャンパス移転といった、京都ひいては日本の文化芸術における大きな局面に注目した特別記念事業「Kyoto Music Caravan 2023」を1年にわたり実施します。京都市立芸術大学の学生や卒業生等による京都市の11行政区での無料コンサートや、京都市内でクラシック音楽を学ぶ子どもや生徒・学生が新キャンパスに一堂に会するスペシャル・コンサートの開催を予定しており、クラシック音楽の力による地域活性化を目指します。

以上のように、京都コンサートホールは、文化芸術都市・京都におけるクラシック音楽の殿堂として、世界レベルの音楽芸術を発信してまいります。

1 京都市交響楽団の更なる飛躍を促進

京都市交響楽団の新たな魅力を発信するため、主催事業の基幹となる「京都の秋 音楽祭 開会記念コンサート」を京都コンサートホール館長である広上淳一のタクトでお届けするほか、京都市交響楽団と京都コンサートホールが連携して行うプロジェクト・シリーズを開催します。令和5年度は、指揮者の沼尻竜典と共にワーグナーのオペラや楽劇を取り上げ、ドイツからソプラノ歌手のステファニー・ミュターを招聘すると同時に、日本を代表するバリトン歌手である青山貴をゲストに迎え、名作の数々を演奏します

また、アンサンブルホールムラタでは、京都市交響楽団メンバーによる様々なアンサンブルを共同制作し、個々の活動をサポートすることで、京都市交響楽団の飛躍に貢献します。

2 質の高い音楽芸術の鑑賞機会を提供

令和5年度は、1995年の京都コンサートホールのオープニング事業でも取り上げた18世紀オーケストラを28年ぶりに招聘するほか、ハンブルク交響楽団やロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団といった世界のトップクラスのオーケストラ公演を開催します。

アンサンブルホールムラタでは、没後60年を迎えるフランシス・プーランクをテーマに、フランスを代表する名ピアニストであるパスカル・ロジェと京都にゆかりのあるウインドクインテット・ソノリテによる名曲コンサートを開催します。また、海外アーティストによる室内楽を主にしたシリーズ「北山クラシック倶楽部」については、計4公演を実施します。クラシック音楽専用ホールであるアンサンブルホールムラタで質の高いコンサートを開催することにより、室内楽ファンの開拓を目指してまいります。

3 日本有数のパイプオルガンの活用

1996年より継続して開催している、西日本最大級の京都コンサートホールのパイプオルガンを活用した『オムロン パイプオルガン コンサートシリーズ』を2公演開催します。令和5年度は、「世界のオルガニスト」としてドイツを中心に国際的な演奏活動を展開している日本人オルガニスト、「オルガニスト・エトワール」としてりゅーとびあ新潟市民芸術文化会館専属オルガニストを招聘し、名曲の数々をお届けします。

4 ジュニアオーケストラの運営／大学生を中心とした実演家の育成支援

京都市交響楽団員や合奏指導者の指導のもと、オーケストラ活動を展開している「京都市ジュニアオーケストラ」は、指揮に園田隆一郎を迎えて「第19回 京都市ジュニアオーケストラコンサート」を開催します。活動を通して、次代の文化芸術の担い手や鑑賞者の育成を図るとともに、文化芸術を通してコミュニケーションを促進し、青少年の健全な育成に寄与します。

また、関西の音楽大学・芸術大学8校の学生が京都コンサートホールに一堂に会する『第12回 関西の音楽大学オーケストラ・フェスティバル IN 京都コンサートホール』では、指揮者の下野竜也と共に、ベートーヴェンの《交響曲第9番「合唱つき」》を披露します。この事業では、普段交流することのない各大学の学生たちが、日頃の練習成果を相互に発表しあうとともに、各大学間における情報交換・ネットワークの拡大・音楽教育の向上などを目指します。

5 子どもや青少年の創造性を育む事業

誰でもクラシック音楽を気軽に楽しむことができる『KCH的クラシック音楽のススメ』では、世界的ピアニストの小曾根真をゲストに迎え、子どもから大人まで楽しめるワークショップ及びスペシャルライブを実施し、音楽の楽しみ方を様々な角度から学びます。

京都コンサートホール登録アーティスト制アウトリーチ事業『Join us! ～^{ジョイナス}キョウト・ミュージック・アウトリーチ～』では、生演奏を介して地域住民と文化的交流を図りながら、未来の聴衆を育てます。

また、幼児からオルガンに親しめる『ポジティブオルガン体験講座』では、ホール来館から音楽鑑賞まで、子どもたちにとっては初めての体験となる「クラシック音楽との出会い」を提供します。子どもたちの感性をより一層豊かにするようなプログラムづくりを心がけ、未来の聴衆づくりに努めます。

6 地域の活性化と市民参加型演奏会の開催

多種多様なファン層の獲得を目指し、京都コンサートホールならではの独自事業を開催するとともに、ホールやホール周辺に賑わいをもたらす事業づくりを心がけています。

平日11時開演のマチネコンサートである『京都北山マチネ・シリーズ』では、国内外で活躍する若手から中堅音楽家をゲストに迎えて、トーク付きの60分公演を全4回実施します。チケット価格を廉価に設定することにより、市民が気軽にホールを訪れることのできる機会を提供します。さらに、地域の商店街と協力しランチタイムサービス等を実施することにより、地域の活性化にも貢献してまいります。

一般の演奏家が熟演を繰り広げる『リレーコンサート』では、実際に舞台に立つ喜びを提供します。市民に向けてより開かれた事業として、また音楽を通しての交流の場となることを目指して開催します。

1階エントランスホールを活用した『京都コンサートホール・ロビーコンサート』では、入場無料とすることで様々な客層に対して来場機会を提供します。また近年、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために入場制限を設けていましたが、令和5年度は制限を解除して実施します。

さらに、ホール会員の増加を目指すとともに、クラシック音楽の魅力を幅広い客層に向けて発信する「亀井聖矢ピアノ・リサイタルin京都コンサートホール」のほか、文化庁京都移転と京都市立芸術大学新キャンパス移転を記念した特別事業『Kyoto Music Caravan 2023』を実施します。『Kyoto Music Caravan 2023』では、京都市立芸術大学の学生や卒業生、教員らによる京都市11行政区での無料コンサートに加え、京都市内でクラシック音楽を学ぶ子どもや生徒・学生が新キャンパスに一堂に会する「スペシャル・コンサート」を実施し、「文化芸術都市・京都」の新たな局面をまちじゅうで祝福します。

7 音楽芸術活動の支援制度

将来の音楽芸術文化を担う人材の育成に資するため、音楽芸術活動を財政面で支援する「京都コンサートホール ホール利用助成制度」を引き続き実施し、大学の交響楽団演奏会や若手音楽家による室内楽演奏会などを支援します。また、大学からのインターンシップや中学校での「生き方探究チャレンジ体験」などの受け入れを積極的に行ってまいります。

(参考) ホール利用助成制度の実績

年 度	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 (見込)
実 績	7事業	11事業	14事業	13事業

(参考) 京都コンサートホールにおける事業・公演数の変遷

年 度	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 (見込)	令和5年度 (計画)
事業数	37事業	44事業	44事業	34事業	44事業
公演数	42公演	60公演	50公演	42公演	51公演
講座数	10講座	5講座	4講座	4講座	7講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和元年度はうち2事業3公演、令和2年度はうち30事業46公演、令和3年度はうち13事業13公演を中止及び次年度以降延期。

II 受託事業

1 指定管理業務

京都コンサートホールは「世界レベルの音楽芸術の殿堂」としての機能を高めるとともに、より安心・安全で利便性の高い公共ホールとしての機能を高め、更なる利用の促進を図ってまいります。

2 施設管理の目標

京都コンサートホールの利用者の増加やホール利用助成制度の利用促進、リピーターへの営業活動等により利用料金収入増を目指します。

令和5年度の施設利用料金収入額等の目標については、「コロナ以前」となる平成30年度利用実績に利用料金改定による増収を勘案し設定しました。

目標1 利用料金収入額

(単位：千円)

区分	令和5年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績
ホール利用料金	219,706	215,182	183,729	85,429	170,928
駐車場利用料金	18,289	17,956	14,858	6,912	11,355
合計	237,995	233,138	198,587	92,341	182,283

目標2 入場者数

(単位：名)

区分	令和5年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績
入場者数	296,000	295,466	264,910	48,209	103,894

目標3 日数利用率

(単位：%)

施設	令和5年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績
大ホール	71	69	61	40	72
アンサンブル ホールムラタ	62	61	57	28	55

○上記稼働率を達成するために、特に平日利用を促進するための取組を行います。

○学校関係に対し、利用案内の送付・営業訪問等を行います。

○定期的なホール利用促進会議を実施し、近隣ホールを利用する団体、また周年を迎える企業や芸術文化団体をリサーチし、営業訪問等を行うとともに、ホールをご利用いただいた皆様へ、後日、アンケートを兼ねたお礼状を送付し、リピーターの確保並びにニーズ把握に努めます。

3 お客様のサービス向上に向けた取組

(1) お客様満足度向上会議（CS会議）の推進

全施設に設置しているCS（顧客満足度向上）会議やレセプション・舞台担当会議を引き続き開催し、施設管理運営における問題点の改善やサービス向上に努めてまいります。

施設で働く全部門の従事者の代表が参加し、利用ニーズの把握、要望の検証等を協議し、「利用者が望むものは何か」を常に考え、利用者の期待に応える接客・応対を実施してまいります。

(2) アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」・お客様ご意見箱の設置

今年度も「理事長への手紙」を引き続き実施し、手紙をいただいた皆様からのご意見を参考に、これまで以上にサービスの向上に努めます。

また、施設の利用に関する要望や提案をお伺いするために、「お客様ご意見箱」の設置や、施設を利用する全ての利用者（鑑賞者、主催者、来館者等）を対象にしたアンケート調査を実施します。

(3) 京都コンサートホール鑑賞マナーの推奨

鑑賞者に演奏会をより快適な空間・環境で楽しんでいただくために、「鑑賞マナーリーフレット」の配布や館内に鑑賞マナー向上を啓発するポスターを掲示して、京都コンサートホールに来ていただいた全ての鑑賞者が満足していただけるよう、より良い環境づくりに努めてまいります。

(4) 施設管理体制の更なる強化

利用者、観客等の安全確保を最優先にしつつ、快適な施設としての品質を確保するよう適切な維持管理を行います。開館後、27年が経過し、施設の老朽化を踏まえ日常の設備運用や保守点検、備品管理等を適正に実施します。また、京都市による劣化度調査の結果を踏まえた大規模改修へ向け、計画的かつ効率的な修繕や改修計画の実施に向けて取り組みます。

4 広報・宣伝、チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務

(1) 自主事業ラインアップの発行

京都コンサートホールが自ら企画する主催・共催事業のラインアップを紹介するための年間パンフレットを発行し、劇場のファンを増やすとともに、施設利用促進や賛助会員獲得にもつなげていきます。

(2) 催物カレンダーの発行（毎月）

京都コンサートホールが自ら企画する主催・共催事業のほか、京都コンサートホールで開催される最新の催物情報を掲載した「京都コンサートホール コンサートガイド」を毎月

発行します。デザインも一新し、より見やすく魅力的な情報をお届けすることで、チケットの販売促進につなげます。

(3) ホームページ等の充実

インターネットの利点を最大限に活かし、閲覧者に常に新鮮な情報を発信し、情報の充実や画面の見やすさ、離脱しにくいページの工夫を行ってまいります。貸館についてのページも拡充し、初めてホールを利用するお客様にも分かりやすく使いやすい、貸館利用促進に繋がるページにしてまいります。

(4) 電子チケットの運用

スマートフォンやパソコンにQRコードを発行し、読み取り機にQRコードをかざすだけで入場できる電子チケットを、取得の際の手数料を安価に設定し利用を促進します。電子チケットを購入することで、窓口等でチケットを受け取る必要がなくなる等のメリットをより広く発信し、お客様の利便性の向上を図ってまいります。

(5) チケットカウンターにおける非接触決済の導入

キャッシュレス決済が普及するなか、京都コンサートホール及びロームシアター京都のチケットカウンターにおいても多様なニーズに対応するため電子マネー決済やQRコード決済を導入し、お客様の利便性向上を図ってまいります。

(6) セット券の販売

お客様の多様なニーズに対応するためセット券を販売します。令和5年度は、単券よりもおよそ10%以上安くお求めいただけるオーケストラセット券（3公演・4公演、共通座席「マイシート」適用）を2年ぶりに販売します。また、アンサンブルホールムラタで世界のトップクラスの室内楽を鑑賞する『北山クラシック倶楽部』のセット券（全4公演、100枚限定、共通座席「マイシート」適用）を販売し、単券よりもおよそ15%安価に提供することで、最上の鑑賞機会を提供します。

(7) 学生、高齢者、障がい者等が音楽を鑑賞しやすい環境の整備

コンサートホールの自主事業における学生割引制度、シニア割引制度、障がい者割引制度を実施し、学生、高齢者、障がい者等が音楽を鑑賞しやすい環境を整備します。

(8) ウィークデーパッケージプランの運用

クラシック音楽だけではなく、他のジャンルにも間口を広げ、多様な音楽ファンが集えるホールとして「京都コンサートホールウィークデーパッケージプラン」を引き続き実施し、平日のホール利用率向上に努めます。

(参考) ウィークデーパッケージプラン事業数

年 度	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 (見込)
事業数	5事業	3事業	5事業	9事業

(9) 外部資金の獲得

主催事業の実施に当たっては、文化庁助成、民間助成に加え、民間企業等からの協賛金の獲得に努めます。さらには、賛助会員制度（5 各種会員制度等の運営（2）賛助会員制度の運営 参照）を活用します。

5 各種会員制度等の運営

(1) 「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の会員数拡大に向けた取組

令和5年度も引き続き「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の周知を図るとともに、会員を限定とした京都市交響楽団の練習風景の公開や京都コンサートホール・ロームシアター京都の両施設のバックステージツアー、会員限定コンサートなど幅広いイベントを開催し、またグッズ割引を実施するなどの特典も付与することにより、新規会員の獲得に努めてまいります。

フレンズ（オンライン）会員についても、メールマガジンで随時情報を発信して京都コンサートホールとロームシアター京都への関心を喚起し、会員の維持・拡大に努めます。

(参考) 会員数の推移

(単位：名)

会 員 制 度	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 (見込)
京都コンサートホール・ ロームシアター京都Club	2,761	2,071	2,531	3,010

(2) 賛助会員制度の運営

京都コンサートホールならびにロームシアター京都の主催事業の一層の充実のため、年間を通じた支援を受けるべく、賛助会員（サポーター・パートナー会員）制度を設けています。会員の方には情報誌の送付、チケットの先行予約、会員向けイベントなどの特典をご用意し、継続してご支援いただけるよう努めます。

(参考) 会員数と寄付金額の推移

会 員 区 分	令和2年度 実績		令和3年度 実績		令和4年度 (見込)	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
スペシャルサポーター（法人）	2件	100万円	2件	100万円	2件	100万円
サポーター（法人）	20件	210万円	17件	180万円	17件	180万円
スペシャルパートナー（個人）	33件	218万円	28件	149万円	16件	103万円
パートナー（個人）	52件	104万円	48件	96万円	47件	100万円
合 計	107件	632万円	95件	525万円	82件	483万円

■ 地域文化会館

(東部文化会館、呉竹文化センター、西文化会館ウエスティ、北文化会館、右京ふれあい文化会館)

I 主催事業〔全45事業54公演5講座〕

地域文化会館が地域の文化芸術の活動拠点として、平成23年度から取り組んできた「地域文化芸術活動活性化協議会」「文化芸術活性化パートナーシップ事業」「アウトリーチ活動」などを引き続き実施し、文化芸術活動団体、行政、学校関係、地元の各団体等とのネットワークを強化し、文化芸術活動の育成や支援と情報受発信、地域イベントへの積極的な関与など地域との関わりを深め、地域の文化芸術の振興に努めてまいります。

1 地域文化芸術活動活性化協議会の開催

各地域文化会館を拠点に活動しているパートナーシップ団体、行政、教育機関など、それぞれの代表者で構成された「地域文化芸術活動活性化協議会」を各地域文化会館に設置し、地域ネットワークの構築、文化芸術の情報提供、アウトリーチ事業の開催協力、施設運営への助言や意見交換などを行ってまいりましたが、地域に根差した意見を吸収できる環境を整え、協議会の持つネットワークを活用し、文化芸術活動・情報の受発信、事業の協働開催など、文化芸術の活動拠点として、より一層、地域に寄り添い活性化を図るとともに、魅力ある地域づくりに貢献してまいります。

2 地域文化会館の重点的な取組

地域文化会館では、以下の5つの視点を重視した文化事業を実施します。

- ① 文化芸術活性化パートナーシップ事業
- ② 地域における文化芸術普及事業
- ③ 地域の文化芸術活動を担う人材育成事業
- ④ 住民の文化芸術活動への支援型事業
- ⑤ 施設間の交流事業

(1) 文化芸術活性化パートナーシップ事業

京都市から委託を受けて取り組んできた「フランチャイズ(活動拠点)化事業」を、平成23年度から「文化芸術活性化パートナーシップ事業」と名称変更し、財団の自主事業として実施しています。本事業では、文化会館が地域の文化芸術の拠点であることを意識した鑑賞型の「無料公演」と、地域の子どもたちを対象とした「教育プログラム」の実施のほか、「アウトリーチ活動」にも積極的に取り組みます。また、地域の教育機関や福祉施設と連携し、文化芸術の社会包摂機能の更なる活用や、地元の文化芸術団体と連携した文化芸術活動の活性化やネットワークの強化と拡大を図ってまいります。

(参考) 令和5年度パートナー団体

文化会館名	パートナー団体
東部文化会館	日吉ヶ丘ギターマンドリンアンサンブル
呉竹文化センター	京・伏見音楽サークル和音
西文化会館ウエスティ	特定非営利活動法人京都フィルハーモニー室内合奏団
北文化会館	合唱団「葡萄の樹」
右京ふれあい文化会館	RAM吹奏楽団

(2) 地域における文化芸術普及事業

ア 伝統的芸術文化の紹介

伝統音楽・伝統芸能を文化会館が広く市民に紹介し、理解と支援、継承の機運形成の一助とすることを目的とした公演やワークショップを開催します。呉竹文化センターでは琉球古典舞踊を取り上げたワークショップ「日本の伝統芸能との出会い「琉球の伝統芸能」(仮称)」、北文化会館ではプロの噺家による質の高い伝統話芸「伝統芸能「寄席」(仮称)」、右京ふれあい文化会館ではわかりやすい解説とワークショップを交えた「地域みんなの狂言鑑賞会(仮称)」をそれぞれ開催します。

イ アウトリーチ事業

地域文化会館5館で、市民の文化芸術活動の活性化や地域の文化芸術の振興を目的として、地域文化会館に登録している協力団体(文化芸術活動団体)が地域の各団体、学校、福祉施設などからの依頼により、ミニコンサートやワークショップ等を行う「アウトリーチ事業」に積極的に取り組みます。

(3) 地域の文化芸術活動を担う人材育成事業

ア 地域の教育機関との連携

京都市立芸術大学と連携した「ウエスティ音暦(おとごよみ)」(2公演)を西文化会館ウエスティで、また、「京都市立芸術大学 文化会館コンサートⅠ・Ⅱ」(2公演)を北文化会館で実施し、才能ある若い世代の活動を支援します。また、東部文化会館では、京都橘大学と連携し、文化芸術の振興に寄与する人材の育成を目的とした「文化芸術による地域貢献プロジェクト」を引き続き実施します。

さらに、京都市内の病院や福祉施設、小学校、総合支援学校などに伺い、生演奏に触れ音楽を気兼ねなく楽しむ機会を提供するアンサンブルコンサートを、京都市交響楽団と連携して開催します。

イ 子どもを対象とした体験型事業

次世代の文化芸術活動を担う子どもたちが、多様な芸術表現や劇場に触れ豊かな感性と創造性を身につけるための事業として、東部文化会館で「アニメーションづくりを楽しもう！」を、西文化会館ウエスティで「夏休みウエスティたんけんツアー」を実施します。

(4) 住民の文化芸術活動への支援型事業

ア 市民参加型事業（活動団体の支援）

市民の誰もが文化芸術活動に参加し自己表現することに感動できる事業として、「市民創造ステージ」を令和5年度も引き続き、北文化会館で開催します。

また、東部文化会館では、地域との連携・協働による参加型事業として、地域のコーラスサークルによる発表や交流の場とする「第18回コーラス・フェスティバル in 山科・醍醐」を開催します。

イ 地域と連携しアーティストのパフォーマンスを支援

西文化会館ウエスティでは地域ネットワークを活用し、地元で活動している文化芸術活動団体にパフォーマンスの場を提供し、地域への活動情報の発信などを通じてアーティストの技術・芸術性向上への支援を行う「ウエスティ・パフォーマンス広場」を開催します。

ウ 地域における文化芸術の普及を支援

右京ふれあい文化会館では、右京区の太秦に映画撮影所があることから、「京都・太秦キネマのまち」と題して、キネマの町に因んだ、世紀の名優の映画について、映画関係者による対談・講演と、関連する映画作品の上映を実施します。

エ 創作文化の作品展示

賑わいスペースの創出として、東部文化会館では「ギャラリーエコム」、呉竹文化センターでは「くれたけミニギャラリー」、西文化会館ウエスティでは「ウエスティ ギャラリー」、北文化会館では「KITABUNミニギャラリー」、右京ふれあい文化会館では「右京ふれあいミニギャラリー」を通年で開催します。

オ 舞台芸術活動なんでも相談会

市民の舞台芸術の芸術性や創造性を高めるため、公演やコンサートでの照明・音響演出、舞台運営方法など舞台づくりに関する相談について、専門性豊かな技術担当者が提案やアドバイスをを行います。

(5) 施設間の交流事業

ア 鑑賞型事業の実施

市民が京都市交響樂團を通じて、気軽にクラシック音楽を楽しめるように、京都市交響樂團のメンバーによるクラシック音楽のコンサート「ちょっと素敵な朝からクラシック」を、呉竹文化センターにおいて2公演を開催します。

また、京都市交響樂團と連携し、文化会館5館において低料金で0才から入場できる「ZERO歳からのみんなのコンサート」の開催や、市民が生演奏に触れ、気軽にクラシック音楽に親しむ機会を提供するアンサンブルコンサートを開催します。

イ 未就学児向けの公演の実施

地域文化会館5館とロームシアター京都との連携事業として、劇場に初めて訪れる「シアターデビュー」を楽しい体験にし、より多くの人たちが劇場に足を運ぶことができる環境づくりと、子どもを対象とした良質な舞台作品を生み出すこと、作品作りに関心を持つアーティストやスタッフを増やすことを目的に、各館で公演を実施します。海外から招聘した作品上演と、クラシックとパントマイムを融合した創作舞台で、子どもたちの創造性を豊かにするとともに、音楽を身近に感じる作品上演を実施します。

ウ 京都市ジュニアオーケストラの活動支援

京都コンサートホールとの連携事業で京都市交響樂團が指導する「京都市ジュニアオーケストラ」については、音楽活動を充実させるため、練習会場として各地域文化会館を活用するとともに、活動内容の情報を発信するなど、若いオーケストラを支える環境づくりを行います。

また、右京ふれあい文化会館では、「京都市ジュニアオーケストラ・サマー・コンサート」を開催します。

エ 京響コーラスの活動支援

京響コーラスの練習会場として文化会館での利用支援や練習公開を実施することで、京響コーラスのレベルアップと地域の文化振興を図ります。

(参考) 文化会館における事業・公演数の変遷

年 度	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 (見込)	令和5年度 (計画)
事業数	53事業	50事業	55事業	53事業	45事業
公演数	70公演	68公演	69公演	59公演	54公演
講座数	18講座	7講座	6講座	7講座	5講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和元年度はうち5事業10公演、令和2年度はうち30事業34公演3講座、令和3年度はうち12事業18公演2講座、令和4年度はうち1事業2公演を中止及び次年度以降延期

II 受託事業

1 指定管理者業務

地域文化会館の指定管理者として、地域住民の文化芸術を核にした「豊かなくらしの実感」を提供するとともに地域住民の多彩な文化的活動の拠点としての機能を発揮し、更なる利用の促進を図ります。

2 施設管理の目標

新型コロナウイルス感染症の影響も和らぎ、令和5年度は通常利用に回復していくと予想され、施設の利用促進のための営業活動や国等による助成金の確保にも努めます。感染症対策は状況に応じて継続し、利用者が安心・安全に施設をご利用いただけるよう取り組み、「コロナ以前」となる平成30年度実績を上回ることを目標とします。

目標1 利用料金収入額 (単位：千円)

施設	令和5年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績
東 部 文 化 会 館	32,690	30,756	29,069	15,722	23,808
呉 竹 文 化 セ ン タ ー	39,830	37,665	59,045	22,385	32,059
西文化会館ウエスティ	33,097	31,099	30,247	16,172	25,071
北 文 化 会 館	40,114	38,126	31,591	19,759	29,320
右京ふれあい文化会館	35,858	33,631	35,562	20,417	29,513

目標2 日数利用率 (単位：%)

施設	令和5年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績
東 部 文 化 会 館	64	64	55	36	59
呉 竹 文 化 セ ン タ ー	75	74	69	42	67
西文化会館ウエスティ	62	60	60	41	63
北 文 化 会 館	80	77	59	39	67
右京ふれあい文化会館	69	69	67	46	63

以上、各施設の規模、立地条件、地域との連携等を活かした事業を企画し、各種文化芸術活動団体、教育機関、京都市交響楽団との連携をより一層深めながら、文化芸術の振興・発展を目指すとともに、サンキューレターの活用による利用者のリピート率向上を図り、これまで以上に集客及び増収に取り組んでまいります。

3 お客様のサービス向上に向けた取組

(1) お客様満足度向上委員会（CS委員会）の推進【再掲】

京都コンサートホール（7ページ）参照

(2) アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」・お客様ご意見箱の設置【再掲】

京都コンサートホール（7ページ）参照

4 集客のための取組

(1) 地域文化会館割引制度

地域文化会館の平日のホール利用の促進や、追加利用に対するサービス向上を図るため、引き続き平日直前利用割引制度と平日連続区分利用割引制度を実施します。

(参考) 地域文化会館割引制度利用数 (単位：件)

平日直前利用割引	令和3年度 実績	令和4年度 (見込)
東 部 文 化 会 館	5	4
呉 竹 文 化 セ ン タ ー	3	4
西文化会館ウエスティ	4	10
北 文 化 会 館	4	6
右京ふれあい文化会館	3	12
計	19	36

平日連続区分利用割引	令和3年度 実績	令和4年度 (見込)
東 部 文 化 会 館	39	47
呉 竹 文 化 セ ン タ ー	56	78
西文化会館ウエスティ	24	41
北 文 化 会 館	39	39
右京ふれあい文化会館	42	53
計	200	258

■ ロームシアター京都

令和5年度の自主事業ラインアップテーマは、「出会いの旅路、その交点」としています。プログラムには、「さまざまな時代/地域/ジャンル」で紡がれてきた文化や先人の表現を踏まえた歴史性に根差した視点と、そこから飛躍した現代的な視点が交わり、同居する舞台が揃いました。

I 主催・共催事業〔38事業76公演8講座〕

世界水準の優れた作品をお届けするとともに、作品と社会の関係や、作品を創造し育むための様々な視点を得ながら、ロームシアター京都ならではの方法を試行錯誤し、今日における劇場の果たすべき役割を見出していきます。この目的を果たすため、自ら舞台芸術作品を企画・制作するシリーズ、他の劇場・芸術団体と共同で新作を制作するシリーズを発展させ、その作品の背景や見どころについての理解を促し、鑑賞の手引きとなるようなウェブマガジンやパンフレット、上映会等の関連企画を充実させます。さらに、地域文化会館や青少年活動センター、京都芸術センターなど、他の文化施設と連携し、京都における文化芸術のハブとしての機能を高めるための事業を実施します。『つながり（交流）』を全事業の包含する要素として位置づけ、『つくり（創造）』、『育て（育成）』、『活かす（生活）』有機的なサイクルを作り上げます。

1 交流事業

2021年の中止を経て、ついに実現するのが太陽劇団22年ぶりの来日公演です。日本の伝統芸能をリサーチし参照すると同時に、夢の中の日本にある架空の島「金夢島（かねむじま）」を舞台に、現代の諸問題を浮き彫りにします。また、ディミトリス・パパイオアヌーの招聘といった世界水準の演目によって、「文化の殿堂」としての存在感を発揮し、待ち望んだ海外との交流の促進をはかります。

2 創造事業

アーティスト高谷史郎の新作パフォーマンスをシリーズ「レパトリーの創造」において発表します。高谷はアーティストグループ「ダムタイプ」の創設メンバーであり、現在では、ソロワークとして、常に芸術とテクノロジーの新しい実験を試み、美しさと同時に、先鋭的な作品を発表するアーティストとして世界的に注目されています。この「レパトリーの創造」や伝統芸能のシリーズ《継承と創造》、劇場間連携事業 穂の国とよはし芸術劇場プラットプロデュース、川口隆夫「薔薇色ダンス」、音楽シリーズSound Aroundなど、ロームシアター京都を創造の場として機能させ、ここから新たな舞台芸術を誕生させてまいります。

3 育成事業

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 京都公演『魔笛』」、「小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXX」、京都芸術センターとの連携事業「U35創造支援プログラムKIPPU」を実施することで、交流や育成の場としての機能を大いに果たしてまいります。令和元年度にスタートさせた、10代を対象とした人材育成事業「劇場の学校」も継続します。

4 生活事業

多彩なライフスタイルを享受する「生活事業」として、「プレイ！シアター in Summer」、「OKAZAKI PARK STAGE」など、ホールを飛び出して行う幅広い事業でロームシアター京都ならではの「劇場文化」を醸成してまいります。

5 賑わいスペース事業

パークプラザには、飲食をしながら読書などができるブック&カフェや、催物前後の語りを楽しむことのできるレストラン等があり、また、岡崎公園ともつながるローム・スクエアやロビー等では、マルシェなどの野外イベントや芸術作品の展示等を通じて子どもから大人まで楽しめる空間が広がっており、様々な人々が日常的かつ継続的にロームシアター京都に足を運ぶサイクルが生まれています。

ロームシアター京都が舞台芸術にとどまらず、多くの方の交流の場となり、岡崎エリアの賑わいの一翼を担っていくために、賑わいスペース事業者として京都市に選定されたカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）と調整・連携を図り、ホールでの催物に加えて日常的にさまざまなサービスやイベントを展開していきます。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、営業時間についてはこれまで通常としていたものから一時的に変更していますが、令和5年度においても、社会的状況を踏まえ適切な営業時間で運営を行うものとします。

(参考) 賑わいスペースを活用した事業内容等

事業内容	場所、店舗名称	営業時間※
ブック&カフェ	パークプラザ1階 (屋外テラス等を含む) 【京都岡崎 蔦屋書店】 【スターバックスコーヒー】	午前8時から午後10時※
ギフト雑貨販売		午前8時から午後10時※
クローク		午前8時から午後9時※
レンタサイクル		午前8時から午後8時※
インフォメーション		午前8時から午後10時※
レストラン	パークプラザ2階 (屋外テラス等を含む) 【京都モダンテラス】	午前8時から午後11時※
レセプション		
コンベンションサービス		
キオスク	サウスホール1階ホワイエ内 【ファミリーマート】	午前8時から午後10時※

ギャラリー・ライブラリー	パークプラザ3階 共通ロビー内 【BOOK&ART GALLERIA】	午前9時から午後 7時※ (開館時間等に応じて変更)
--------------	---	-------------------------------

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、本欄記載の営業時間から一時的に変更して営業している場合があります。

6 ミュージックサロン事業

音楽をはじめとした文化芸術に様々な形で触れ合うことができる音楽総合体験施設「ミュージックサロン」(パークプラザ3階)を、公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションと共同運営します。

「ミュージックサロン」は、①音楽その他文化芸術に関する資料の展示、②セミナー、講演会、コンサート等の文化芸術イベントを開催する施設として運営しています。オーケストラやオペラなどの貴重な映像を大型スクリーンでご鑑賞いただいたり、ロームシアター京都でのオペラ公演に関連する特別展示等を開催するほか、概ね2ヶ月ごとにコンサートを開催してまいります(入場無料)。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、オンラインによる配信等も活用してまいります。

(参考) ロームシアター京都における事業・公演数の変遷

年 度	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 (見込)	令和5年度 (計画)
事業数	32事業	30事業	32事業	31事業	38事業
公演数	87公演	87公演	83公演	56公演	76公演
講座数	10講座	3講座	7講座	6講座	8講座

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和元年度はうち4事業8公演2講座、令和2年度はうち7事業25公演、令和3年度は6事業15公演を中止及び次年度以降延期。

II 受託事業

1 指定管理業務

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は発生からこれまでの間に、医療的な知見の蓄積やワクチン接種の進展等により、一定程度の重症化抑止や感染数の減少が図られてきており、ホール施設等を利用した催しの開催にあたっての感染拡大予防策も緩和の傾向にありますが、令和5年度においても、感染拡大防止ガイドラインの更新と適切な対策実施に取り組み、引き続き施設を安心してご利用いただけるように努めます。

その上で、各施設の特性を活かした施設利用が行われるよう、充実した設備や立地、また多数の著名アーティストが公演を行ってきた知名度を活かした集客の可能性や実績の強調等により、従前の利用者にもこれまで通り利用していただきながら、MICEなども含めた新たな利用の促進も引き続き図ってまいります。

また、的確な利用調整や各種指標に基づく施設管理等による効率的で効果的な施設運営を行い、あわせて利用料金収入の確保に努めます。

2 施設管理の目標

新型コロナウイルス感染症の影響は減少傾向にありますが、利用者が安心・安全に施設をご利用いただけるよう引き続き感染症対策に取り組み、施設の利用を回復させるため、令和5年度は「コロナ以前」となる平成30年度利用実績に回復することを目標とします。

(1) 施設利用促進に向けた営業活動

各施設の特性やこれまでの実績等を踏まえ、本格的な総合舞台芸術公演等を積極的に誘致するとともに、市民の文化活動の発表の場として各施設の特性が最大限発揮されるような利用を促進していきます。また、利用者への各種サポート等により利便性の向上に努め、繰り返しロームシアター京都を利用していただけるよう努めてまいります。

(2) MICE誘致に向けた関係機関との定期的な協議

多彩な文化・交流施設が集積し、国の「重要文化的景観」にも選定された岡崎エリアにおいて、より質の高いMICEの開催が可能となることを積極的にPRするとともに、MICE等の誘致・対応に向けて、京都市及び京都文化交流コンベンションビューロー、みやこめっせ、京都市京セラ美術館等との情報連携を強化し、様々なニーズに応じていきます。

目標 1 利用料金収入額

(単位：千円)

区 分	令和5年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績
ホール等利用料金	340,634	333,812	337,152	136,254	274,933

目標 2 入場者数

(単位：名)

区 分	令和5年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績
入場者数	500,000	497,784	478,875	76,076	210,564

目標 3 日数利用率

(単位：%)

施 設	令和5年度 目標	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 実績
メインホール	81	81	74	49	63
サウスホール	80	80	77	46	63
ノースホール	72	72	77	59	67

○上記稼働率を達成するために、特に平日利用を促進するための取組を行います。

○関西圏・首都圏の主要プロモーター・プロダクションや、京都府・京都市内の教育機関、文化団体への営業活動等を実施します。

○ノースホールについては新たな施設であることから、主催事業等で実績を強調しホールの存在をアピールするほか、新たな利用想定にあった利用者候補（演劇や舞踊など）を新規開拓するとともに、利用しやすい環境づくりに努め、利用に結び付けていきます。

3 お客様のサービス向上に向けた取組**(1) お客様満足度向上会議（CS会議）等の推進**

利用者・来場者の安心・安全を確保し、施設管理運営における問題点の改善やサービス向上のため、職員や委託業者が参加するCS（顧客満足度向上）会議等を開催し、利用ニーズの把握、要望の検証等を行い、利用者の期待に応える接客・応対を実施してまいります。

(2) アンケート調査の実施及び「理事長への手紙」の設置【再掲】

京都コンサートホール（7ページ）参照

(3) 賑わいスペース事業者定期連絡会の開催

賑わいスペース事業における各店舗の責任者等との定期的な連絡会を開催し、日常的な施設運営に係る様々な情報共有を確実に行うことで、施設全体として円滑な連携のもと、サービスの向上に努めます。

(4) 施設管理体制の更なる強化

利用者、観客等の安全確保を最優先にしつつ、快適な施設としての品質を確保するよう適切な維持管理を行います。開館後の実際の運用により把握してきた施設や各種機器の特性などを踏まえ、光熱水費の抑制にも取り組みながら利用状況や季節変動等に応じた日常の設備運用や保守点検、備品管理などを工夫し、利用者への情報提供等を行うことで、よりの確で効率的な施設運営に努めます。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すでに策定したガイドラインやサーモグラフィー等の機材・設備等の適切な運用を行うとともに、職員等の業務内容や体制面での整備も進めるとともに、従前から進めている各種マニュアルの更新や場内サービス業務等の研修、施設全体に係る防災訓練等を、引き続き実施することで、安心・安全で快適な劇場空間を提供してまいります。

開館7年を経て、施設・設備も補修や修繕が必要となり始めていることから、計画的かつ、効率的な修繕の実施、また、今後の修繕計画の策定に取り組みます。

4 広報・宣伝、チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務

催物カレンダーや事業ラインアップの発行、ホームページやSNSの運用、貸館の広報、会員制度の運用及び事業実施等にあわせた話題づくり等により、効果的な広報・宣伝を展開し、ロームシアター京都への期待感を引き続き高めていくとともに、劇場の認知度をさらに向上させることで来館や貸館利用の促進に努めます。

また、京都コンサートホールと共通のチケット販売システムの運用を行い、市民サービスの向上とともに貸館利用促進に結びつけてまいります。

(1) 自主事業ラインアップの発行

ロームシアター京都が自ら企画する主催・共催事業のラインアップを紹介するためのリーフレットを発行し、ロームシアター京都のビジョンを提示することで、劇場のファンを増やすとともに、施設利用促進や賛助会員獲得にもつなげていきます。

(2) 催物カレンダーの発行（毎月）

ロームシアター京都が自ら企画する主催・共催事業のほか、ロームシアター京都で開催される最新の催物情報を掲載した「ロームシアター京都 イベントカレンダー」を毎月発行し、集客やチケットの販売促進につなげます。

(3) ホームページ等の充実

ホームページについては、平成27年度に開設し、アクセスの分析等を踏まえた掲載情報の更新、閲覧や掲載作業に係るシステムの更新等を重ねてきました。新型コロナウイルス感染症の影響下においては、オンラインでアクセスできるコンテンツの重要性も増していることから、令和3年度に充実させた特設サイトやSNS等のコンテンツ活用を維持し、より閲覧しやすく使用しやすいものとなるよう工夫を図ってまいります。

(4) 電子チケットの運用【再掲】

京都コンサートホール（8ページ）参照

(5) チケットカウンターにおける非接触決済の導入【再掲】

京都コンサートホール（8ページ）参照

(6) 外部資金の獲得【再掲】

京都コンサートホール（9ページ）参照

5 各種会員制度の運営

(1) 「京都コンサートホール・ロームシアター京都Club」の会員数拡大に向けた取組【再掲】

京都コンサートホール（9ページ）参照

(2) 賛助会員制度の運営【再掲】

京都コンサートホール（9ページ）参照

■ 京都市交響楽団

1956年に全国唯一の自治体直営オーケストラとして発足した京都市交響楽団は、多くの市民に支えられながら、日々演奏力に磨きをかけ、最良の音楽を届けることに邁進し、文化的な市民生活に寄与するとともに、日本屈指のオーケストラとして評価されるまでに、成長・発展を続けてきました。

平成30年度に京都市交響楽団条例が制定され、令和元年度には、京都市交響楽団の更なる発展を目指すため、京都市交響楽団ビジョンを策定しました。令和2年度からは、地方公務員法及び地方自治法の改正に伴い、京都市交響楽団楽団員は、京都市の特別職非常勤嘱託員から、当財団の職員となりました。

また、平成20年4月から第12代及び第13代常任指揮者として14年間にわたり京響をリードしてきた広上淳一に代わり、令和3年10月開催の定期演奏会で共演し、来場者や楽団員から好評であった沖澤のどかが令和5年度から3年間の任期で第14代常任指揮者に就任いたします。また、首席客演指揮者については、令和4年5月開催の定期演奏会で共演したヤン・ヴィレム・デ・フリーントが令和6年度から就任予定であり、新たな指揮者体制の下、楽団のレパートリーを多様化し、新たな京響の魅力を引き出すとともに、世界へ京響を発信してまいります。

今後も、京都市交響楽団ビジョンに基づき、「身近な存在として、市民に愛され誇りとされるオーケストラ」「文化芸術都市・京都の象徴となるオーケストラ」「世界に向けて最高の音楽を発信し続けるオーケストラ」を目指し、これまで培ってきた財産を継承しながら、新たな時代を見据えて果たすべき役割を自覚し、更なる発展を目指してまいります。

I 主催・共催事業〔27事業49公演〕

1 定期演奏会

新常任指揮者の沖澤のどかに加え、巨匠から実力派、新進気鋭の若手まで幅広く、世界で活躍する指揮者やソリストを招き、古典から近・現代までの魅力あふれる楽曲を数多く揃え、芸術性の高い、充実した演奏を提供してまいります。

また、令和4年度から開始した、金曜夜7時30分開演の休憩なし約1時間プログラムの公演「フライデー・ナイト・スペシャル」を、令和5年度は全ての2日開催月の初日公演（6公演）に拡大し、さらなる聴衆拡大を図ります。

2 特別演奏会

恒例のスプリングコンサート、第九コンサート及びニューイヤーコンサートを開催し、充実した出演者と心躍る楽曲により、時節を彩る演奏をお届けします。

3 特別演奏会（市外公演）

第14代常任指揮者沖澤のどかの披露公演として東京で演奏会を開催します。また前常任指揮者広上淳一指揮のもと、大阪及び名古屋で特別演奏会を開催し、日本屈指の演奏力と評される京響の知名度や評価の全国区での更なる浸透を目指します。

4 オーケストラ・ディスカバリー

名曲の演奏と楽しいトークでオーケストラやクラシック音楽の魅力を紹介する青少年のための演奏会を開催し、青少年の情操の向上や健全な心の育成とともに、若い世代へのオーケストラの振興と普及を図ります。年4回のシリーズ券を設定し、定期演奏会の会員への導入コンサートとしても位置づけています。

5 ZERO歳からのみんなのコンサート

地域の文化会館を会場に低料金で入場できる演奏会を開催し、日頃クラシック音楽に接する機会の少ない市民の皆様にも身近で生の演奏に接する機会を提供し、地域密着型のオーケストラとしてクラシック音楽の普及、クラシック音楽ファンの醸成、京響ファンの獲得を図ります。令和5年度から6公演全てについて対象年齢を0歳からに統一し、御家族そろってオーケストラの魅力をお楽しみいただきます。

6 地域文化会館との連携事業等

地域文化会館が実施するアウトリーチ事業に協働で取り組み、地域の文化芸術の振興を図ります。

7 共催事業

京都市の小・中学生を対象とした音楽鑑賞教室を開催し、クラシック音楽の普及、クラシック音楽ファンの醸成、若年層の京響ファンの獲得を図ります。

8 その他事業

京都市ジュニアオーケストラへの演奏指導、中学生や高校生を対象とした楽器講習会、京響コーラスの運営など、京都に根差した音楽活動を通して、京響を市民に身近に感じていただく活動や将来の音楽文化の担い手の育成などにも取り組みます。

Ⅱ 京響友の会

令和5年度は、年間通しての定期会員、フライデー・ナイト・スペシャル会員に加え、新たな会員制度として、4枚分のチケットを自由に選択できる、「セレクト・セット会員」を設けます。

法人会員につきましても、前年同様チケット会員に加え、スポンサー会員制度と寄附会員制度を御用意し、今後も京響が世界水準の音楽で京都の文化芸術をリードし、音楽を通じた京都のひと・まちづくりを進めていくための支援・協力を求めてまいります。

Ⅲ 受託事業

依頼に応じて、京都市内の演奏会に加え、京都府下（綾部、舞鶴公演）や、高槻（大阪府）、福山（広島県福山市）など市外の演奏会にも出演し、クラシック音楽の普及や京響のアピールに取り組めます。

■ その他

I 組織人員体制・配置等の最適化

令和5年度については、業務効率や生産性の向上に取り組みつつ、適正な人員体制の確保に努めます。これまで蓄積してきた専門知識・ノウハウを継承し、キャリアの浅い職員からベテランまで、各職員の能力を十分に発揮・伸張させることで組織の活力の向上を図ります。

II 働きやすい職場づくりの推進

財団内の職員間における不合理な待遇の差をなくし、どのような雇用形態の職員にとっても働きやすい職場環境づくりに引き続き、努めてまいります。

職員の意欲・能力を適切に評価し、積極的な登用を行ってまいります。

また、令和5年度についても引き続き、年次有給休暇の取得の推進や時間外労働の抑制の推進を行うとともに状況に合わせ、柔軟に新しい働き方を検討してまいります。

III 人材育成・職員研修

職員一人ひとりが、常に知識、意欲、技術の向上を図ることで利用者により一層気持ちよく使用していただくとともに、社会的要請や環境変化に対応して、より自立的・安定的な組織運営力を発揮していくために必要な研修を実施してまいります。

令和5年度については、職員一人一人が幅広い知識・課題解決力の向上等、更なるスキルアップを図ることを目的として、民間企業が実施する研修への参加機会をこれまで以上に推進し、次世代のリーダーを育成してまいります。

また、効果的・効率的な職員の配置を行うために、新規採用職員に対しての基本研修の実施や、すべての職員に対し、コンプライアンスに関する意識の向上を図る研修を実施するとともに、管理職員向けの研修等も引き続き、実施してまいります。

IV 環境への配慮

当財団は、平成20年のKES（京都市環境マネジメントシステム・スタンダード）認証の取得以後、毎年再認証を取得しています。

令和5年度も、職員全員が環境マネジメント活動を推進し、地球環境との調和を目指し、積極的な節電対策など環境に配慮した会館運営を行います。

また、リサイクル促進について、利用者から発生する缶・ビン・ペットボトルなど、ゴミの分別廃棄を徹底するとともに、業務上発生する印刷書類等裏側の再利用やリサイクル紙の購入等をはじめとするグリーン調達を行います。

設備・備品調達や外部委託発注においても、グリーン調達及び委託業者の環境配慮動向を見極めた発注を行うように努めます。

さらにエネルギー削減を行うため、会館内の適正冷暖房の設定及び不必要な電灯の消灯等の取組を徹底してまいります。

V ファンドレイジング及びICT環境整備による財務の合理化の推進

より安定的な財源の確保を目指して、公的、民間を問わず外部資金の獲得の強化に努めます。また、ICTの活用により、顧客サービスの向上と事務作業の負担軽減の両立を目指し、財務の合理化を引き続き、推進してまいります。

『収益事業』

I 公益目的外の施設提供事業

1 駐車場経営

指定管理業務として、主に来館者向け駐車場として運営してまいります。

駐車場目標収入額

施設	令和3年度実績	目標駐車場収入額
京都コンサートホール	11,355,470円	18,289,000円
東部文化会館	2,472,100円	4,029,000円
西文化会館ウエスティ	2,742,600円	5,096,000円
右京ふれあい文化会館	2,888,600円	4,366,000円
計	19,458,770円	31,780,000円

2 オリジナルグッズ等販売

京都コンサートホールオリジナルグッズや京響オリジナルグッズ等を販売してまいります。

オリジナルグッズ等目標収入額

項目	令和3年度実績	目標収入額
京都コンサートホール	184,178円	400,000円
ロームシアター京都	166,350円	200,000円
京都市交響楽団	1,623,951円	1,040,000円
計	1,974,479円	1,640,000円

3 プレイガイドの運営

主催者から、入場券の作成業務及び入場券の販売業務を受託し、それぞれのプレイガイドで販売します。

入場券販売業務受託収入の目標収入額

施設	令和3年度実績	目標収入額
京都コンサートホール	12,192,655円	16,000,000円
地域文化会館	16,810円	74,000円
ロームシアター京都	5,826,236円	10,000,000円
計	18,035,701円	26,074,000円

令和5年度

収支（正味財産増減）予算

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

令和5年度収支（正味財産増減）予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

（単位：千円）

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
①基本財産運用益	355	355	0	
1 基本財産運用益	355	355	0	
基本財産受取利息等	355	355	0	
②特定資産運用益	350	100	250	
1 特定資産運用益	350	100	250	
特定資産受取利息等	350	100	250	
③事業収益	2,164,217	2,089,430	74,787	
1 自主・共催事業収益	577,148	589,328	△ 12,180	
入場料収益	180,391	177,377	3,014	
参加料収益	2,216	1,509	707	
友の会会費	53,908	50,420	3,488	
京響コーラス会費	2,160	2,400	△ 240	
広告料収益	49,435	15,090	34,345	
共催事業収益	126,068	135,777	△ 9,709	
助成金収益	159,973	203,473	△ 43,500	
物品販売等収益	1,997	2,282	△ 285	
著作隣接権等収益	1,000	1,000	0	
2 事業受託収益	154,310	166,584	△ 12,274	
事業受託収益	154,310	166,584	△ 12,274	
3 管理受託収益	765,185	688,147	77,038	
管理受託収益	765,185	688,147	77,038	
4 利用料収益	625,869	601,710	24,159	
ホール利用料金収益	594,089	569,930	24,159	
駐車場利用料金収益	31,780	31,780	0	
5 その他事業収益	41,705	43,661	△ 1,956	
企画・演出手数料等収益	12,200	12,200	0	
賑わい事業収益	19,850	19,850	0	
プレイガイド事務手数料収益	9,655	11,611	△ 1,956	
④受取補助金等	860,000	855,000	5,000	
1 受取地方公共団体補助金	860,000	855,000	5,000	
京都市補助金	860,000	855,000	5,000	
⑤受取寄付金	7,112	7,030	82	
1 受取寄付金	7,112	7,030	82	
寄付金収益	7,112	7,030	82	
⑥雑収益	10,190	15,395	△ 5,205	
1 雑収益	10,190	15,395	△ 5,205	
受取利息等	1	1	0	
管理手数料等収益	9,955	9,934	21	
雑収益	234	5,460	△ 5,226	
経常収益合計	3,042,224	2,967,310	74,914	

令和5年度収支（正味財産増減）予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
(2)経常費用				
①事業費	2,966,653	2,923,701	42,952	
役員報酬	4,112	3,795	317	
給料手当	1,025,883	1,095,768	△ 69,885	
賞与引当金繰入額	37,095	40,923	△ 3,828	
退職給付費用	20,582	26,940	△ 6,358	
臨時雇賃金	61,752	41,128	20,624	
福利厚生費	187,717	193,209	△ 5,492	
会議費	25	25	0	
旅費交通費	28,519	34,601	△ 6,082	
通信運搬費	27,942	26,507	1,435	
減価償却費	9,767	13,994	△ 4,227	
消耗什器備品費	4,985	2,445	2,540	
消耗品費	31,814	29,772	2,042	
商品費	800	1,280	△ 480	
見本費	10	200	△ 190	
修繕費	35,600	19,910	15,690	
印刷製本費	38,630	37,229	1,401	
広告宣伝費	30,818	30,981	△ 163	
光熱水料費	215,750	212,600	3,150	
賃借料	72,968	63,846	9,122	
保険料	2,750	2,492	258	
諸謝金	4,357	4,346	11	
租税公課	63,091	67,384	△ 4,293	
支払負担金	12,999	12,475	524	
チケット購入額	85	85	0	
支援事業助成金	500	200	300	
委託費	1,036,823	950,138	86,685	
接遇交際費	128	128	0	
支払手数料等	7,952	8,613	△ 661	
雑費	3,199	2,687	512	
②管理費	33,934	29,052	4,882	
役員報酬	2,938	2,711	227	
給料手当	17,634	14,258	3,376	
賞与引当金繰入額	2,523	1,895	628	
退職給付費用	745	732	13	
福利厚生費	4,263	3,721	542	
会議費	200	200	0	
旅費交通費	200	200	0	
通信運搬費	100	100	0	
減価償却費	291	291	0	
消耗什器備品費	100	100	0	
消耗品費	500	500	0	
修繕費	50	50	0	

令和5年度収支（正味財産増減）予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
印刷製本費	50	50	0	
保険料	300	300	0	
諸謝金	397	397	0	
租税公課	2,733	2,337	396	
支払負担金	300	300	0	
委託費	500	800	△ 300	
接遇交際費	50	50	0	
支払手数料等	50	50	0	
雑費	10	10	0	
経常費用合計	3,000,587	2,952,753	47,834	
当期経常増減額	41,637	14,557	27,080	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	41,637	14,557	27,080	
一般正味財産期首残高	619,426	604,869	14,557	
一般正味財産期末残高	661,063	619,426	41,637	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	136,117	85,000	51,117	
指定正味財産期末残高	136,117	85,000	51,117	
III 正味財産期末残高	797,180	704,426	92,754	

令和5年度収支（正味財産増減）予算書 内訳書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業			収益事業等 物品販売等 公益目的外 事業	法人会計	内部取引消去	合 計
	公 1	公 2	小 計				
	文化芸術事業	ホケステラによる 文化芸術事業					
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1)経常収益							
①基本財産運用益	355	0	355	0	0	0	355
1 基本財産運用益	355	0	355	0	0	0	355
基本財産受取利息等	355	0	355	0	0	0	355
②特定資産運用益	350	0	350	0	0	0	350
1 特定資産運用益	350	0	350	0	0	0	350
特定資産受取利息等	350	0	350	0	0	0	350
③事業収益	1,528,754	414,479	1,943,233	398,108	33,934	△ 211,058	2,164,217
1 自主・共催事業収益	357,101	218,050	575,151	1,997	0	0	577,148
入場料収益	93,457	86,934	180,391	0	0	0	180,391
参加料収益	2,216	0	2,216	0	0	0	2,216
友の会会費	3,500	50,408	53,908	0	0	0	53,908
京響コース会費	0	2,160	2,160	0	0	0	2,160
広告料収益	49,335	100	49,435	0	0	0	49,435
共催事業収益	110,438	15,630	126,068	0	0	0	126,068
助成金収益	98,155	61,818	159,973	0	0	0	159,973
物品販売等収益	0	0	0	1,997	0	0	1,997
著作権隣接権等収益	0	1,000	1,000	0	0	0	1,000
2 事業受託収益	4,680	196,429	201,109	0	0	△ 46,799	154,310
事業受託収益	4,680	196,429	201,109	0	0	△ 46,799	154,310
3 管理受託収益	637,818	0	637,818	93,433	33,934	0	765,185
管理受託収益	637,818	0	637,818	93,433	33,934	0	765,185
4 利用料収益	529,155	0	529,155	244,554	0	△ 147,840	625,869
ホール利用料金収益	529,155	0	529,155	212,774	0	△ 147,840	594,089
駐車場利用料金収益	0	0	0	31,780	0	0	31,780
5 その他事業収益	0	0	0	58,124	0	△ 16,419	41,705
企画・演出手数料等収益	0	0	0	12,200	0	0	12,200
賑わい事業収益	0	0	0	19,850	0	0	19,850
プレイガイド事務手数料収益	0	0	0	26,074	0	△ 16,419	9,655
④受取補助金等	0	850,940	850,940	9,060	0	0	860,000
1 受取地方公共団体補助金	0	850,940	850,940	9,060	0	0	860,000
京都市補助金	0	850,940	850,940	9,060	0	0	860,000
⑤受取寄付金	7,012	100	7,112	0	0	0	7,112
1 受取寄付金	7,012	100	7,112	0	0	0	7,112
寄付金収益	7,012	100	7,112	0	0	0	7,112
⑥雑収益	1	0	1	10,189	0	0	10,190
1 雑収益	1	0	1	10,189	0	0	10,190
受取利息等	1	0	1	0	0	0	1
管理手数料等収益	0	0	0	9,955	0	0	9,955
雑収益	0	0	0	234	0	0	234
経常収益合計	1,536,472	1,265,519	2,801,991	417,357	33,934	△ 211,058	3,042,224

令和5年度収支（正味財産増減）予算書 内訳書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業			収益事業等 物品販売等 公益目的外 事業	法人会計	内部取引消去	合 計
	公 1	公 2	小 計				
	文化芸術事業	ホケステラによる 文化芸術事業					
(2)経常費用							
①事業費	1,546,780	1,217,086	2,763,866	413,845	0	△ 211,058	2,966,653
役員報酬	2,350	1,469	3,819	293	0	0	4,112
給料手当	271,966	654,003	925,969	99,914	0	0	1,025,883
賞与引当金繰入額	23,079	6,202	29,281	7,814	0	0	37,095
退職給付費用	15,567	373	15,940	4,642	0	0	20,582
臨時雇賃金	22,745	5,990	28,735	33,017	0	0	61,752
福利厚生費	50,402	115,916	166,318	21,399	0	0	187,717
会議費	25	0	25	0	0	0	25
旅費交通費	8,695	19,629	28,324	195	0	0	28,519
通信運搬費	11,928	15,122	27,050	892	0	0	27,942
減価償却費	5,105	3,439	8,544	1,223	0	0	9,767
消耗什器備品費	3,359	750	4,109	876	0	0	4,985
消耗品費	16,260	10,507	26,767	5,047	0	0	31,814
商品費	0	0	0	800	0	0	800
見本費	0	0	0	10	0	0	10
修繕費	26,713	3,000	29,713	5,887	0	0	35,600
印刷製本費	25,774	12,339	38,113	517	0	0	38,630
広告宣伝費	20,178	10,360	30,538	280	0	0	30,818
光熱水料費	157,609	9,450	167,059	48,691	0	0	215,750
賃借料	116,536	96,440	212,976	2,832	0	△ 142,840	72,968
保険料	978	1,600	2,578	172	0	0	2,750
諸謝金	1,945	1,830	3,775	582	0	0	4,357
租税公課	39,819	6,178	45,997	17,094	0	0	63,091
支払負担金	1,910	10,800	12,710	289	0	0	12,999
チケット購入額	85	0	85	0	0	0	85
支援事業助成金	5,500	0	5,500	0	0	△ 5,000	500
委託費	715,029	226,307	941,336	158,705	0	△ 63,218	1,036,823
接遇交際費	54	50	104	24	0	0	128
支払手数料等	2,040	3,292	5,332	2,620	0	0	7,952
雑費	1,129	2,040	3,169	30	0	0	3,199
②管理費	0	0	0	0	33,934	0	33,934
役員報酬	0	0	0	0	2,938	0	2,938
給料手当	0	0	0	0	17,634	0	17,634
賞与引当金繰入額	0	0	0	0	2,523	0	2,523
退職給付費用	0	0	0	0	745	0	745
福利厚生費	0	0	0	0	4,263	0	4,263
会議費	0	0	0	0	200	0	200
旅費交通費	0	0	0	0	200	0	200
通信運搬費	0	0	0	0	100	0	100
減価償却費	0	0	0	0	291	0	291
消耗什器備品費	0	0	0	0	100	0	100
消耗品費	0	0	0	0	500	0	500

令和5年度収支（正味財産増減）予算書 内訳書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	公益目的事業			収益事業等 物品販売等 公益目的外 事業	法人会計	内部取引消去	合 計
	公1	公2	小 計				
	文化芸術事業	ホケステラによる 文化芸術事業					
修繕費	0	0	0	0	50	0	50
印刷製本費	0	0	0	0	50	0	50
保険料	0	0	0	0	300	0	300
諸謝金	0	0	0	0	397	0	397
租税公課	0	0	0	0	2,733	0	2,733
支払負担金	0	0	0	0	300	0	300
委託費	0	0	0	0	500	0	500
接遇交際費	0	0	0	0	50	0	50
支払手数料等	0	0	0	0	50	0	50
雑費	0	0	0	0	10	0	10
経常費用合計	1,546,780	1,217,086	2,763,866	413,845	33,934	△ 211,058	3,000,587
当期経常増減額	△ 10,308	48,433	38,125	3,512	0	0	41,637
2. 経常外増減の部							
(1)経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額			0		0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 10,308	48,433	38,125	3,512	0	0	41,637
一般正味財産期首残高			616,287	3,139	0	0	619,426
一般正味財産期末残高			654,412	6,651	0	0	661,063
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高			136,117	0	0	0	136,117
指定正味財産期末残高			136,117	0	0	0	136,117
III 正味財産期末残高	0	0	790,529	6,651	0	0	797,180